



富士橋(建設中)

かけはし

第180号
2022年6・7月号

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ(地域教育担当)

南巨摩郡富士川町蹴沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



179号の富士橋です

目次:

地推協理事会・総会 人権講演会開催 峡南教育フォーラム案内	1
六郷小 新入生防犯教室 語ろう！山梨のむかしむかし	2
甲斐黄金村・湯之奥金山博 物館 開館二五周年記念講演 びゅあ峡南 リニューアルオープン	3
身延小・市川小 砂防移動教室 増穂中 親の背中出前講座	4



例年になく、早くから猛暑が続いています。コロナ対策と合わせ、熱中症予防対策も万全に。

179号から2ヶ月経過した富士橋(左上)の変化がわかりますか？ 確実に工事は進行(成長)しています。

私の成長は・・・

令和四年度 峡南地域教育推進連絡協議会 (地推協) 第一回理事会・総会開催

地推協は

峡南地域の教育機関、行政機関、地域住民等の連携及び構成団体相互の支援強化を図り、望ましい教育環境や社会環境づくりを推進することを目的としています。

令和四年度 理事会・総会

六月一日(水)南巨摩合同庁舎で理事会、七月五日(火)身延町総合文化会館ホールで総会が行われました。令和三年度の事業・決算報告、令和四年度の新役員や事業計画・予算等について、慎重な審議が行われ、承認されました。



山本純司会長

地推協では教育に関する講演や教育相談のリーフレット

ト、地域連携行事予定表の配布、教育推進活動事業一覧の公開、地域教育情報誌「かけはし」の発行など地域連携のための活動を行っています。

峡南地域人権講演会

峡南教育事務所

渡辺実子 SSW

総会に続き、「あなたの近くにもいるヤングケアラー」連携して支援するには」と題して人権講演会が開催されました。

渡辺SSWは、SSW(スクールソーシャルワーカー)として児童生徒・保護者・教職員の支援・相談を行っています。各メディアで取り上げられているヤングケアラーについて、実践者、ソーシャルワーカーとして学校で活動している福祉の専門家の目線から、ヤングケアラーについて話されました。

ヤングケアラーの捉え方。ケアを担うことと負担を抱え、より大きな問題につながっていき、連携して支援するために、「知る・学



「知る・学

峡南地域教育フォーラムのご案内

8月24日(水) 14:20~

身延町総合文化会館 (会議室)

〇講演

「SDGsって何？」

～家で、地域で、学校でできるSDGs～

2030 SDGs 公認ファシリテーター

SDGs KAIチームリーダー 田中 実氏

「孤立させない」「支援者だけでなく何かしよう」としないで当事者と一緒に考える」等、ヤングケアラー支援に参考となる内容で、参加者は熱心に聞き入っていました。詳しい内容については、かけはし号外でお伝えします。

六郷小学校 「新入生防犯教室」

五月二六日(木)六郷小学校体育館で、鯉沢警察署・スクールサポーターの方々の協力により新入生の防犯教室(不審者からどうやって身を守るのか)が行われました。

児童の元気な「おはようございます」の挨拶の後、上田寛二校長先生が不審者対応の基本「いかのおすし」について確認を行いました。子どもたちは元気にひとつひとつ大きな声で答えていました。「ここで学んだことを、教室へ戻ってもう一度振り返ってください。家へ帰ってからも家の方と今日勉強したこと、気をつけることを話してください。」と述べ防犯教室が始まりました。

鯉沢警察署生活安全係から

「みなさん、一番大事なものは何かわかる人いますか?」の問いかけに対して、子どもたちは「いのち」と答えました。「今回自分の身は自分で守ることを勉強していきたいと思えます」と話し、「不審者ってどんな人かわかる人いますか?」、「不審者ってどんなところにいると思うかわかる人いますか?」など子どもたちへの問いかけを行い、不審者を見分けるポイントや不審者に会った時の

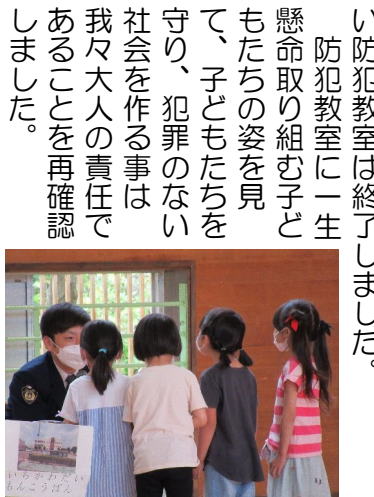


対応について「いかのおすし」を使い、わかりやすい説明と具体的な対処方法を教えてくれました。そして、担任の先生の協力を得て大きな声で「助けて。」と声を出す練習を行いました。

体験開始

体育館を下校時の通学路に見立て、鯉沢警察署・スクールサポーターの方々が、地域の方・不審者・交番のおまわりさん役になってグループごとに体験を行いました。子どもたちは、地域の人には元気に挨拶をしました。一方「お菓子をあげるから遊ぼう。」、「どこか行こう。」と車に誘う不審者、追いかけてくる不審者には「助けて。」と大きな声を出し走って交番に駆け込みました。おまわりさんの問いかけに対してしっかりと何があったのか、服装や車の色など不審者の特徴をしっかりと伝えていました。

最後に、「不審な車については色だけでなく、ナンバー(数字のみ)も覚え、警察に教えてください。」と話し、ナンバーを覚える勉強を行い防犯教室は終了しました。懸念取り組む子どもたちの姿を見て、子どもたちを守り、犯罪のない社会を作る事は我々大人の責任であることを再確認しました。



市川三郷町立図書館 「語ろう!山梨のむかしむかし」



五月二九日(日)市川三郷町生涯学習センター研修室において、山梨に伝わる昔ばなしの再話本(再話)の会を開催されました。これは、作成に関わった山梨昔ばなし再話研究会の方々が山梨県内で最初に行った語りの会です。「山梨のむかしむかし」は、「昔ばなしを次の世代に伝えていかなければ、昔ばなしは消えてしまうのではないか。」「今こそ昔ばなしを残さなければ。」「この思いから二〇二二年に刊行されました。当日は、幅広い年齢層の方が多数参加し、語りに魅了されていました。」

山梨昔ばなし再話研究会代表の鈴木和代さんが「共通語・土地言葉それぞれの良さを子どもたちに伝えたい。子どもたちに残したい作品を二四選んだ。」「巻末には、土地言葉(それぞれの土地に伝わる言葉)の索引を付けた。また、表紙絵、挿絵にも山梨らしさを加えた。」「昔話の楽しさ、面白さを知って頂ければと願っています。本日は二四作品の中から八作品を紹介しました。山梨

に伝わる昔ばなしをお楽しみください。」と述べ、語りの会が始まりました。

語りの会

共通語で五作品、土地言葉で三作品の計八作品の昔ばなしを紹介しました。

また、作品紹介の途中で、「あんだがたどこさ」を参加者の皆さんと一緒に速さを変えて楽しみました。

次に、「あんだがたどこさ」を即興で甲斐の国バージョンにアレンジして披露し、昔ばなしと合わせて楽しい時間が過ごせました。

昔ばなしを通して地元山梨について、子どもは新しい発見をしたかのように期待に胸を膨らませ、大人は昔ながらの土地言葉や自身の幼少期を懐かしんでいました。

紹介作品: 山寺の地鳴り(土地言葉)・すずめとりじい・蛇嫁(土地言葉)・人が馬になる・孝行夫婦(土地言葉)・グズ・五左衛門の化けくらべ・なまけ神



甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 開館二五周年記念講演

六月五日(日)、身延町にある甲斐黄金村・湯之奥金山博物館において、「開館二五周年記念講演会」が開催されました。九州大学名誉教授井澤英二先生と松江工業高等専門学校教授久間英樹先生のお二人が鉱山史研究の最前線についてお話されました。



会の冒頭、出月洋文館長が、金山資料館から金山博物館へと名称が変わったことなど、開館からの経緯を踏まえあいさつしました。湯之奥金山の一つ中山金山(国史跡)を中心に、早川町や南部町の峡南地域の金山を文化財として大切にしていきたいと述べました。

井澤英二先生 「金山の技術と産金」

井澤先生は、「自身と湯之奥金山との関わりについてふれ、「きんざん」(「金を生産する鉱山」と「かなやま」(「金属を生産する鉱山」)について話されました。特定の金属が必要とされてきた歴史的背景をもとに、金生産の中心が砂金採取から山金採掘に移り変わる中で生まれた



技術とそこから得られる産金量について、講演されました。

久間英樹先生

「三次元レーザースキャナで解き明かす戦国時代から江戸時代初期にかけての鉱山採掘方法」

久間先生は、全国約三〇カ所の坑道を、三次元レーザースキャナや遠隔操作ロボットを用いて、鉱山遺跡の形状や採掘方向などの詳細なデータをとり、坑道採掘年代の推定を行っていただきます。講演の中では、データをもとに再現された坑道内の様子や調査方法などを、映像も使ってお話をしてくださいました。



会場には、多くの方が集まり、盛大な講演会となりました。また、松江高専の生徒さんが作った二五周年記念の特製キーホルダーも参加者全員にプレゼントされました。



湯之奥金山博物館は、四月二十四日(日)に開館二五周年を迎えました。当日は、館長講座が実施されたり、来館者へプレゼントが手渡されました。今後も様々なイベントが予定されています。詳細は湯之奥金山博物館ホームページをご覧ください。

年を迎えました。当日は、館長講座が実施されたり、来館者へプレゼントが手渡されました。今後も様々なイベントが予定されています。詳細は湯之奥金山博物館ホームページをご覧ください。

ぴゅあ峡南リニューアルオープン 記念式典・記念講演会

「山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ峡南」が、六月二二日(日)南部町の旧富河中学校二階にリニューアルオープンしました。これまで、男女共同参画社会の実現のため、男女共同参画に関する学習の機会と交流の場を提供し峡南地域の皆様に親しまれてきました。

※「ぴゅあ」とは「男女共同参画社会をめざし、新鮮な感覚で、いきいきはつらつと行動する拠点」という意味です。(公益財団法人やまなし文化学習協会ホームページより引用)

当日はオープニングイベントとして、長崎知事を始め多数のご来賓をお招きして一時から記念式典が行われました。



一三時からの記念講演では、中央大学名誉教授の広岡守穂先生が「男女共同参画は地域の未来を創る」と題して講演を行いました。この講演は、「ぴゅあ富士」ではオンライン配信され、また「自宅で視聴希望」の方にはオンライン会議システムのZoomを使用し配信されました。

広岡守穂先生

「男女共同参画は地域の未来を創る」
広岡先生は、「今の生きるテーマは



可愛いおじいちゃんになること(一緒にいて気楽な、緊張せずに話ができる人間)を目指し日々修行している。」と話し、会場は和やかな雰囲気にもまれ講演が始まりました。

「自身の経験を踏まえ、「傾聴(相手の言っていることをしっかりと受け止める)とアサーティブネス(自分の言っていることを上手に相手に伝える)は、一対、傾聴トレーニングの大切さと必要性、傾聴トレーニングは男女共同参画で非常に重要な課題であること。」「地域の実情に合った男女共同参画行動計画を作ること。」「ぴゅあ峡南には色々な可能性がある。地域の問題、まちづくり、男女共同参画行動計画や地域の行動計画に対してコーディネートできる人・ワークショップデザイナー・傾聴できる人が育つ場で地域の将来を支える大切な施設。それを育てていくのは利用者自身、色々な提案・行動をしながら地域を盛り上げて良くしていく。」と話されました。

「ぴゅあ峡南」は、峡南地域における男女共同参画の活動拠点となります。交流室(体験型展示スペース)や団体活動室(男女共同参画に賛同する団体には無料貸出、ただし事前登録・予約必要)、託児室を設置しています。是非皆さん、「ぴゅあ峡南」に足を運んでみてはいかがでしょうか。

峡南建設事務所河川砂防管理課 砂防移動教室

国土交通省が六月に実施する「土砂災害防止月間」の一環として山梨県が毎年小学校五年生を対象に行っている砂防移動教室「みんなで防ごう土砂災害」が、市川小学校、身延小学校で実施されました。

「明日の山梨県を担う小学生の皆さんに、土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めてもらうことにより、子どもを通じて家庭へ、ひいては地域住民の方々へ土砂災害防止意識の高揚を図る。」ことを目的として行われている事業です。

峡南建設事務所の職員が教室に訪問して、わかりやすく説明を行いました。二校の移動教室の様子を紹介します。

市川小学校

市川小学校では、六月九日（木）



講師の方々

に実施されました。峡南建設事務所から四名の方が来校しました。

「砂防のお仕事（土砂災害に関するDVD視聴）」「川での遊び方」「土砂

災害模型実験と簡易雨量計作り」という流れで学習を行いました。

土砂災害実験では、土砂や流木に見立てたビー玉・割り箸が、上流か

土砂災害実験



したが、集中してコツコツと取り組んでいました。

雨の日には、自分が作った雨量計を使って、どのくらい降っているのかを確認してほしいと、建設事務所の方は話をしていました。「雨や災害が起こりそうな時は注意をしてほしい」とも加えました。

身延小学校

身延小学校では、六月一七日

（金）に実施されました。峡南建設事務所身延支所から来校した三名の職員を講師に学習しました。



講師の方々

「土砂災害・水害って何?」「山梨県で起きた大雨災害」「危険な場所を知ろう」「逃げ方を知ろう」ということについて、動画やクイズを交えた話を聞きました。身延支所の方の問いかけに、児童の皆さんは積極的に答えていました。

その後、雨量計作り、土砂災害模型実験が行われました。

ら下流の町へ勢いよく流れ落ちると、大きな声が上がっていました。簡易雨量計は、ペットボトルを雨量計として使うものです。雨量計作りは地道な作業でしたが、集中してコツコツと取り組んでいました。



雨量計作り

土砂災害模型実験では、興味深そうに実験の様子を観察していました。実験から、砂防ダムの効果を実感していました。

「ハザードマップで自宅の位置を確認してください。」「おうちの人も話をして、災害に備えてください。」といったことが話されました。

児童からは、「災害の怖さを知ることができた。」「身延の危険箇所の多さに驚いた。」など、多数の感想が発表されました。

増穂中学校「親の背中出前講座」

富士川町立増穂中学校において、

「令和四年度 親の背中出前講座」が六月二五日（土）に開催されました。この行事は、「親の一生懸命生きる姿や生きる知恵など」を意識して伝えることが必要だとの考えから一八年前に始まりました。保護者が先生役となり、クラスごとに授業が行われます。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、二年間実施できませんでした。一六回目となる今回は、三年生にとっても初めての「親の背中出前講座」となりました。

当日は、午前中にPTA学習会が実施され、親の背中出前講座は午後からのスタートとなりました。全体

放送で、実行委員長であるPTA役員さんから趣旨説明が行われ、各クラスの講座が始まりました。講座の進行も、各クラスでPTAの役員の方が行い、「保護者による手作りの講座」と呼ぶにふさわしいものでした。



講座の内容は、地域に関すること、介護、幼児教育、心や成長に関すること、オリジナル切手作り、ジャグリングなど多岐にわたりました。



生徒たちが体験したり、講師の保護者の方の実演があったりと、どの講座も大変興味深い内容となりました。生徒の皆さんの、時に楽しみ、時に真剣に講座に向かう姿が印象的でした。親の思いを受け止める良い機会となったと思います。

保護者と学校が連携しながら行われる親の背中出前講座。これからも親の考え、生きる姿を伝えてほしいと感じました。

